

## 申請大学に対する委員会審査意見

大学名	審査意見
北海道教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員養成フラッグシップ大学によって育成しようとしている教師像の実現に向け、実践と理論のスパイラル型教職コアカリキュラムを構築するという提案自体は意味あるものであり、そこに実績のある「教育実践力向上 CBT」を活用しようとしている点は独自の特色あるものとして評価できる。</li> <li>・省察を促すカリキュラムの全学展開はこれからであるため、成果の規模・質とも未知数である。教員養成フラッグシップ大学として横展開する場合は、CBT をそれ単体で全国展開するのではなく、省察と結び付けた形で展開することが望まれる。</li> <li>・「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成という観点からは、教育データサイエンスやSTEAM教育を先導する人材の育成にも取り組むことが望まれる。また、へき地教育など、これまでに実績がある分野についても革新的な取組を期待したい。</li> </ul>
東京学芸大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員養成フラッグシップ大学として取り組む内容、組織、資金等、その具体化に向けた準備が組織的になされており、今後の取組の成果が期待できる。</li> <li>・先端教育人材育成推進機構のリエゾンチームの機能による「教育創成科目」の先進的開発手法（企業・産業界との連携）と教員養成課程カリキュラムの運用、全国展開を見据えた当初からの複数地域の教育委員会との連携といった先進性を有する内容が構想されており、これらの実施に係る学内ガバナンスも含めた提案がなされている点は評価できる。</li> <li>・産官学民連携等を通して学部生・院生・現職教員がプログラムの中で何をどう学び取っていくのかという学修プロセスのモデルと評価を明確化し、結果を基に各プログラムやカリキュラム全体の持続的改善を図っていくことが望まれる。</li> </ul>
上越教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに導入しようとしている「GIGA スクール対応科目」は、それ自体の必要性や内容の明確さなどは評価できる。</li> <li>・「GIGA スクールに精通した教師力」を前面に出した計画は今日的で重要なテーマ設定であるが、教科教育や一斉指導を想定した従来の枠組みを超えた提案や、学校運営・経営全体のデジタル化という視点も期待したい。</li> <li>・教員養成フラッグシップ大学に期待される先導的・革新的プログラム開発という観点からは、「GIGA スクール対応科目」を取り入れた結果として、教員養成カリキュラムの全体がどのように改善され、目指す人材像の育成にどのような効果・インパクトがもたらされるかといった点にも着目した提案が望まれる。</li> </ul>
福井大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで築いてきた実践者のネットワーク（コミュニティ）を基盤として、参加者の省察性の一層の高まりと外部からのコミュニティへのアクセスのし易さの向上を目指して、学内の組織改革、省察性を高めるカリキュラム改革、実践者の長期的成長の記録等をリソースとして用いた DX 化を行い、ポートフォリオ等による学習プロセスの評価で成果を明らかにしていこうとする基本的枠組みは、教員養成フラッグシップ大学の一つの実践的展開として評価できる。</li> <li>・複合的実践力を掲げた教師像は明確であり、省察的実践の長期漸成サイクルの重要性は理解できるものの、教員養成フラッグシップ大学としての取組とこれまでの実践との差異を明確にし、今後何を新たに構想し、実現するかをより具体化した上で、革新性をもって取り組むことが必要である。</li> <li>・他学部での教員養成への展開や、他学部が有するリソースを教員養成に生かすといった、総合大学の教育学部のモデルとなる取組を積極的に展開することが一層求められる。</li> </ul>

大学名	審査意見
大阪教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ダイバーシティ大阪」を踏まえた課題設定は適切で、「令和の日本型学校教育」の具現化につながるものであると言え、求められる人材像、人材育成目標やカリキュラムの全体像も具体的で明確である。また、大阪アドバンスト・ラーニング・センター（OALeC）を拠点とした学校教育高度化プロジェクトは革新的で、令和の日本型学校教員養成を先導する可能性が高いと評価できる。</li> <li>・民間企業や行政との連携体制が構築されており、取組を展開するための人的リソースについての展望がある点が評価できる。バーチャルスクールの教材開発を通して全国的に貢献することも期待できる。</li> <li>・カリキュラムの進行とともに、それを評価する持続的改善サイクルを構築することが望まれる。</li> </ul>
兵庫教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの実績に加え、教員養成フラッグシップ大学としての取組が明確に示されており、確実な成果が期待できる。また、サブ・テーマとして「アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発」を掲げており、こうした手法によって不断の改善を図ろうとする姿勢が評価できる。</li> <li>・教員養成スタンダードを立て、それに対応して7テーマを広くカバーしているという領域の広さ、日本型 STEAM 教育、インクルーシブ教育、教育データサイエンスのいずれにおいても、具体的な独自性が高い内容が設定されている。またカリキュラム開発において、社会的インパクト評価のためのロジックモデルの構築に取り組むなど、構想を実現するための検討がしっかりとなされている点が評価できる。</li> <li>・取組の評価に当たっては、直接支援・介入可能な成果（アウトプット・直接アウトカム）から、参加者（学生・院生・現職・大学教員）の変革がどう起きるか（中間・最終アウトカム）の支援と評価が重要であり、参加者のリフレクションが促されるための工夫が求められる。評価についても「観」の転換を目標とする場合、「やっていないつもりができていた」といった受講生をすくい上げる取組も期待したい。</li> </ul>
愛媛大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少社会を見据えた複数免許取得のプログラム、人生 100 年時代に対応した教職セカンドキャリア開発プログラムなど、新たな時代を見据えた取組が見られる点、公立学校等の教育現場の課題やニーズを把握し、数値目標等も含めた具体性のある計画を立てている点は評価できる。</li> <li>・他学部をどのように巻き込むかは必ずしも明確ではなく、教員養成フラッグシップ大学として、総合大学における教員養成改革を先導する取組としての視点が望まれる。</li> <li>・開発するカリキュラム・プログラム等の成果の展開に関して、実効性を担保しつつ全国展開するための構想の具体化を期待したい。</li> </ul>

大学名	審査意見
金沢大学・富山大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリッジング科目という科目群の設定によって、地域のリーダーとなる教員の育成を目指すという点は、これからの人口減少地域において重要な独自の視点を提供していると考えることができ、評価できる。</li> <li>・現行の枠組み内での共同教育課程を具現化するための取組を越えた、教員養成フラッグシップ大学の枠組みを活用した新たな視点を明確化することを期待したい。</li> <li>・協議会の設立や全国の地方教員養成大学ネットワークの構築を構想しているものの、成果の発信・展開のための戦略的連携構想の内容を具体化していくことが望まれる。</li> </ul>
信州大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての授業について専門分野の異なる大学教員が複数で学生を指導する「アリーナ方式」の採用など、構想を実現するための基盤が整っている点は評価できる。</li> <li>・構想の焦点が臨床と ICT に特化されているところであるが、そのことが教員養成フラッグシップ大学に期待される役割を果たしていくことと、どのようにつながっていくのかといった点を明確化することが望まれる。</li> <li>・連携機関との人的・資金的リソースに係る連携という観点や、どのような成果を発信し、成果物を展開できるのかという観点を具体化していくことが望まれる。</li> </ul>
静岡大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの多様性」「子どもたちの多様性」「教師の役割の多様性」が重層化し、複雑に絡み合っている状況を「教育ダイバーシティ」と呼び、「教育ダイバーシティ時代」を担う教員の養成に向けた具体的な計画を立てている点は評価できる。</li> <li>・教員就職率の伸び悩みという静岡大学独自の課題からスタートした構想であるが、教員養成フラッグシップ大学に求められる、先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発を行うという視点から構想内容を具体化することが望まれる。</li> <li>・教員養成フラッグシップ大学構想に取り組む中で、従来の連携機関に加えて、新たな連携関係をどのように構築していくかといった視点を明確にすることが望まれる。</li> </ul>
愛知教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長自ら県内の全市町村教育委員会を訪問し、現場からの声を集約して課題を整理し、それに基づき本構想における人材像や人材育成目標を設定している点は評価できる。</li> <li>・コンテンツやプログラムの発信に加え、今後の教員養成の制度改正につながるビジョンや全体像の発信構想を明確にすることが望まれる。</li> <li>・大学のこれまでの取組の延長線上の改革視点を越えた、教員養成フラッグシップ大学に求められる先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発を行うという視点から、提案が明確化されることが望まれる。</li> </ul>
熊本大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者や関係機関と連携した ICT 活用による先導的プログラムの実績を有し、地域の教育委員会や近隣の大学、NPO 法人、民間事業者等との連携を図ろうとしている点は評価できる。</li> <li>・「教育実践に関する科目」に関する提案を通じ、教員養成フラッグシップ大学として、これからの時代に求められる力を有した教員の養成全体に関わる改善・改革的提案にどのようにつながっていくのか、といった視点を明確化することが望まれる。</li> <li>・他大学との大学レベルのネットワーク、フォーラム等の戦略的連携の構想等、他大学への発信構想を具体化することを期待したい。</li> </ul>

大学名	審査意見
玉川大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育実践研究機構コンソーシアム」による展開の仕組みを構想している点は評価できる。</li> <li>・「Society5.0時代に対応した教員養成を先導する教員養成フラッグシップ大学の在り方について（最終報告）」に示されている人材像や人材育成の目標と、本構想のカリキュラムとの関係を明確にし、教員養成フラッグシップ大学の枠組みを活用した新たな提案という視点から構想を具体化することが望まれる。</li> <li>・本取組のための十分な学内の基盤整備や、多様なバックグラウンドを持つ教員の採用やFDについての実績や計画を明確にすることが望まれる。</li> </ul>
常葉大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン講義棟の活用により、先導的プログラムを複数の大学間に展開するプラットフォーム等を構築する計画を有している点は評価できる。</li> <li>・エンゲージメントというコンセプトに対応した新たな学修内容や方法等を開発するという視点や、提案内容の先導性や革新性を、教員養成フラッグシップ大学に求められる、先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発を行うという視点から明確にすることが望まれる。</li> <li>・他大学や民間事業者との連携に係る独自性や先導性を明確にすることが望まれる。</li> </ul>